

平成30年度 府立桃山高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。 ○SSH2期目の指定のもと、「自然科学科」「普通科」それぞれの特色を踏まえ、生徒一人ひとりの個性や能力を伸長させ、魅力ある学校づくりを一層推進する。 ○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。 ○新学習指導要領を踏まえた教育活動を推進する。	成果 (1) 「自主自律」ワンランク上の「文武両道」など、本校の特色や教育理念、またSSH2期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き、学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。 (2) SSH事業において、普通科・自然科学科ともども、GS課題研究の充実が図られるなど、探究的な学びが進み、その成果が、着実に進路実現につながっている。今年度、SSH事業2期目の中間年に当たり、本校の取組が国において最高評価を得ることができた。 (3) 組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、国公立大学現役合格者数が昨年よりさらに増加するなど、希望進路実現に向けた取組を推進した。 (4) 支援が必要な生徒に対して、個別支援計画を作成し、全教職員の共通理解を図りながら、より丁寧で組織的な支援を行うことで、学校生活や学習継続に着実な成果をあげた。 課題 (1) 新学習指導要領の実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に取り組むなど、生徒の思考力・表現力等の育成を図る取組を推進していく必要がある。 (2) 新しい大学入試制度に対応するため、記述力や、英語の4技能の向上に向けて、また調査書の検討等、様々な視点から、取組を検討していく必要がある。 (3) SSH事業2期目の中間評価を踏まえ、GS課題研究をはじめ、様々なGS科目の充実を図るなど、3期目指定を見据えて、さらに、全校体制でSSH事業の推進に努める必要がある。 (4) 生徒一人一人の自己肯定感がさらに高まるよう、学校行事など、様々な取組の充実に努めるとともに、支援が必要な生徒に対して、引き続き丁寧で組織的な対応に努める必要がある。	(1) ワンランク上の文武両道を実現する取組の中で、生徒が「夢・感動・挑戦」を実感できる学校作りを目指す。 また、生徒が時間を計画的・効果的に活用できるよう、指導を強化するなど、自主自律を目指した取組の推進に努める。 (2) 新学習指導要領の実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善に取り組むため、学校全体で計画的に研修会・公開授業等を実施し、その充実に努めていく。 (3) 生徒の将来を見据えた進路指導を進める中で、進路希望の拡大、希望進路の実現を目指した取組を進める。 とりわけ、新しい大学入試制度への対応も含めて、質の高い授業づくりに努めるとともに、計画的・組織的な進路指導や補習の充実に努める。 (4) SSHの取組が桃山高校の文化として定着できるよう、SSH事業の3期目の指定を見据え、GS課題研究をはじめ、様々なGS科目の充実など、「探究的な学び」を推進するとともに、学校全体で取り組む体制を強化する。 (5) 気持ち良く、自然と挨拶ができる行動を身に付けさせるなど、桃山高校生としての自覚と誇りを持ち、責任ある行動ができるよう、教職員全体で指導を行っていく。また、生徒一人一人の自己肯定感がさらに高まるよう、学校行事など、様々な取組の充実に努める。 (6) 個別支援計画の作成・効果的な活用など、特別支援教育の充実を図るとともに、適応対策会議・教科会議を活用して、支援の必要な生徒に対して、引き続き、組織全体で丁寧な指導を図っていく。 (7) 普通科のSS・GPコースのイベント充実に努めるなど、普通科における特色の推進を組織的に行う。 また、頻度の高いHPの更新、広報ビデオ、広報誌等のさらなる充実に努めるとともに、本校説明会はもとより、機会を捉えて積極的に様々な説明会に参加するなど、桃山高校が目指すもの、本校の魅力を、効果的にかつ幅広く広報する。

平成30年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	文武両道・自主自律の校訓のもと、あらゆる教育活動を通して生徒の個性や能力を最大限に伸ばす教育を実践する。	分掌、教科及び各種会議と連携し、SSH関連行事や学校行事等との調整を図る中で、「生きる力」の育成を目指す。教科主任会を授業時間内に設定する。		
		シラバスや手帳を活用して主体的・自発的な学習態度の育成を図る。定期考査2週間前に「自主学習振り返り週間」を設定し、リフレクションシートなどを用いて日常学習のPDC Aサイクルの確立を検証する。		
		学習状況の振るわない生徒や休みがちな生徒を早期に把握し、学年や保健部と連携して課題解決に向けた対策を検討する。		
	新学習指導要領の実施を見据えた指導法・評価法を研究し、創意工夫を活かした特色ある教育活動を展開する。	生徒の進路希望実現に向けて、平成31年度以降の入学生の教育課程を検討する。		
		次期学習指導要領の実施を4年後に控え、教育課程編成のための情報収集を行う。		
	教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを実践する。	SSH事業を活用して、グローバルサイエンス（以下GS）科目を中心に教科等横断的な指導体制のあり方を引き続き研究していく。		
		「主体的、対話的で深い学び」に結び付けるための授業改善研修会及び研究授業週間（春、秋）を設ける。		
		評価方法についてはルーブリックの作成など、今後へ向けて議論を深めていく。		
		様々な活動や取組状況の把握に努め、すべての教職員への情報提供と「チーム桃山」として一致した指導体制をつくる。		
		ICTの活用や調査書変更に対応するため、必要な環境整備を検討する。		
生徒指導部	文武両道・自主自律の精神を育む。	全教職員による朝の登校指導と下校指導を徹底する。 正しい制服の着用と身だしなみの指導を徹底する。		
		一人一人が主体的に取り組み、自己肯定感を高められるよう学校行事のさらなる充実を図る。 生徒会活動及び各種委員会活動の活性化を図る。		
		部活動の加入率を高水準に保つ。 母校創立100年を迎え、部活動においてもワンランク上の活動を意識させる。		
		登下校時における交通法規の遵守と交通マナーを高める指導を徹底する。 スマートフォン・携帯電話の使用やマナーに関する指導を徹底する。 不適切なSNSへの投稿・情報モラル逸脱等のネットトラブルに関する指導を強化する。		
	規範意識を高揚し、良識ある人間性を構築する。 桃山高校生として自覚と誇りを持たせ、責任ある行動を身につけさせる。	性犯罪の被害防止に努める。 薬物乱用の未然防止に係わる啓発活動を徹底する。 貴重品の管理や防犯意識を高める指導を徹底する。		
		いじめ・悪戯・中傷や人権を脅かす行為に対する厳しい指導を徹底する。また、他分掌と連携し被害生徒のサポートを行う。		
	人間の尊厳に対する自覚を高め、自他の生命と人権を尊重する態度を育成する。	他分掌・教科と連携し人権学習を効果的かつ円滑に行う。		
		通年補習（早朝、放課後、土曜日）、長期休業中補習（夏期、冬期）、国公立二次対策補習（2・3月）、個別指導（日常、面接、小論文）を充実させる。		
進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路実現に向けて方策を講じる。	模擬試験を有効に活用できるよう時期や模擬試験内容を検討するとともに、部活動と両立できるような限りの方策を講じる。また、結果について分析を行い、進路指導につなげる。		
		自習室を開放し、学習アドバイザーを有効に活用し、生徒たちが学習する環境を整える。		
		新しい入試制度に対して情報を収集するとともに、全教職員の共通理解を図るためのシステムを構築する。		
		小論文・志望理由書などの講習会や模擬試験を行い、生徒たちが自分の将来像を描く手がかりを与える。		
	キャリア教育の観点に基づく生徒のキャリア形成と教職員への啓発を行う。	教職員に対して小論文の指導研修会を行い、全教員で指導できる体制づくりを行う。		
		外部講師や卒業生を中心とした大学生による説明会・講演会を行い、生徒たちが進むべき道に興味や関心を持てるようにする。		
	保護者や校内の他分掌、外部の団体と連携する。	保護者に対して学年ごとの説明会や入試説明会を積極的に実施し、本校の進路指導を広く理解してもらう機会を設ける。		
		教員対象の就職説明会や入試説明会、入試研修会の参加を啓発し、全教員が変化する進路環境に対応できるようにする。		
		学校全体として進路指導に対して一致した指導ができるように、学年部や他の分掌と連携を密にする。		

平成30年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育企画 推進部 (広報)	前期入学者選抜の円滑な運営を行う。	昨年度の課題を修正して、より円滑な運営を行う。		
	校内のICT教育環境を整備し、教職員のICT利用の環境整備と支援を行う。	関係各分掌と連携して、校内のサーバーやコンピュータ環境の整備と安定的運用を図る。		
	本校を第1志望として選択してもらうよう、広報活動をより充実したものにします。	<紙メディアを媒体とした広報活動> 関係各分掌と連携して、『スクールガイド』、『学校案内』、『@桃山2018』(年2回の広報紙)、『ポスター』を作成する。		
		<DVDを媒体とした広報活動> 説明会等で使用する本校の魅力を伝えるDVDの充実を図り、本校の教育活動と生徒の姿を伝える。		
		<中学校等訪問> 中学校や関係機関に可能な限り訪問し、本校及び各学科についての説明を行う。		
		<学校説明会> 中学生等を対象に計6回の桃山高校説明会を、また中学校教員や塾対象の説明会を企画・運営し、幅広く桃山高校の魅力と教育内容を伝える。		
		<ホームページの管理・運営> 昨年以上にホームページを頻繁に幅広く更新し、本校の教育活動に関する情報を積極的に外部に発信する。		
		<中学生の本校訪問> 中学生の本校訪問に丁寧に対応し、本校及び各学科についての説明を行い、授業中の校内の雰囲気を感じてもらう。		
教育企画 推進部 (SSH)	3年間を見通した探究活動を推進する。	1年探究活動（BASIC/ベーシック）、2年探究活動（課題研究）、3年探究活動（教科授業）を連動し、3年間連続した探究活動となるように授業体系を改善する。 3年生での探究活動について、理科やGS科目で実施している通常実験を工夫することで実施する。 3年間の取組を連続的に把握できるようにアンケート調査を工夫する。		
	「GS科目」の授業内容を充実する。	GS科目と高大産連携講座の連動を強化し、より効果的な授業内容を検討する。 「GSロジック」と「GSベーシック」と「GS自然科学」の授業内容を連動し、より効果的な指導方法を検討する。		
		「GSベーシック」と「GSサイエンス英語」と「GS課題研究」について、英語力の育成という観点で、より効果的な指導方法を確立する。		
	成果と課題の見える化を推進する。	教材集や指導例集を文書化・データベース化する。 学校ホームページに、開発した教材等を公開する。 GS科目のアンケート結果等を、職員会議や報告書等で公開する。		
	健康面での自己管理能力と、安全な生活を営む正しい判断力の育成のため、健康・安全教育を推進する。	学校医との連携により適切な健康診断と速やかな事後指導を実施するとともに、学校欠席者情報システムの利用により感染症等の予防の意識を向上させ、健康への自己管理を徹底させる。 「薬物乱用防止教育」「性と生き方」の講演会や救急処置講習会を実施し、健康で安全な生活を自ら作る意識を高める。 生徒保健委員会活動（保健だよりの発行や文化祭企画）を通じて、健康安全の啓蒙活動をさらに活性化させる。		
	健全な心身の発達を促進するとともに、課題を抱えた生徒への支援の充実のため、組織的な対応を図る。	定期的な適応対策会議を開き、多様な課題を持つ生徒の状況把握に努め、機会を逃さず生徒・保護者に対する教育相談やカウンセリングを実施する。 教科担当者会議を機動的に開くとともに、特別支援学校の巡回相談も活用することで、特別な配慮を要する生徒に対する個別の支援策を教職員全体で共有できるようにする。 要配慮生徒についての情報を教職員全体で共有し、万一の場合に適切な対応がとれるようにする。		
	環境美化の意識を醸成するとともに、環境保全を自ら実行できる能力を育成する。	生徒美化委員会の活動を通じて、生徒自身による環境美化活動を展開する。 日常の清掃活動を徹底するとともに、定期的に黒板消しクリーナーの点検・清掃をし、快適な学習環境の保持に努める。 定期環境衛生検査（水質・照度・空気・薬品・ダニアレルゲン）を実施する。		

平成30年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
図書部	本校の中核的なラーニングセンターとして位置づけられる図書館を目指した教育環境の整備を図るとともに、生徒の主体的な活動を育成するために、図書委員会活動を推進する。	図書館資料等の充実を図るとともに、コンピューター機器の活用を図り、図書館業務の安定化を目指す。		
		学級文庫の設置や新刊案内など、図書館外での読書活動の啓発を進め、学校全体で読書活動を深められる機運醸成に努める。		
		年間を通して図書委員による自主的な委員会活動を一層促進し、生徒目線の親しみやすい図書館を創造する。		
	本校教育の成果向上に寄与するため、関係分掌と連携し、質の高い事業を展開する。	芸術鑑賞事業の実施を通して、文化活動を愛好する心情を育てるとともに、豊かな情操を養う。		
		国語科と連携し、校内外における読書感想文コンクールの諸活動を行い、読書感想文集を発行する。		
		教職員による図書推薦や、関係分掌と連携し、SSH事業を中心とする課題研究学習等での利用を積極的に推進する。		
	ICT化時代を踏まえた新しい視聴覚機器・コンテンツの整備や充実を積極的に推進する。	視聴覚教室及び視聴覚機器の整備、更新、充実を図り、教職員が利用しやすい環境を整える。		
		生徒自らが、個々の学習目的に応じた資料収集が的確に行えるよう、生徒PCなどの機器更新を進め、SSH事業をはじめとする本校の特色ある教育活動に貢献する。		
第1学年部	一人ひとりが自己肯定感を持てる学年集団を作る。	各担任は学級の視点に加えて、学年的視点を持ち、学年の生徒全体を丁寧に指導する意識を持つ。また、個々の生徒や学級の実態を学年会議で報告し合い、生徒や学級の現状認識を深め、現状に即した指導の在り方を考える。		
		学級リーダーを育成し、生徒達の力でより良い学級運営ができるようにする。また、教師による学年通信の発行だけでなく、生徒達による学級通信を発行を通して、学年/学級集団への帰属意識を高める。		
		学校行事を単なる行事として捉えるのではなく、学年/学級集団がさらに成長するための機会であると捉えて、その成長のためのアイデアを学年会議で出し合い、行事を成功させる。		
	主体的に学習する習慣を身に付けさせ、学力を定着させる。	「予習－授業－復習」の黄金のサイクルが高い学習効果を生むことを常日頃から生徒達に伝え、特に授業を中心として、学力の定着を目指す。		
		教科担当と連携を密にし、学級の学習状況や個々の生徒の様子などの情報を収集し、特に学習に不安を抱えている生徒に対して、個人面談をするなどして、丁寧に指導する。		
		学習手帳を用いて、毎週の家庭学習における目標合計時間の設定と日々の家庭学習時間を記入させ、振り返りをさせながら、主体的に学習する習慣を身に付けさせる。		
	希望進路の実現に向けた取り組みの充実を図る。	学年で統一した目的を共有した上で、個人面談や三者面談を行い、生徒や保護者の意向を踏まえ、進路指導の方向性を考える。		
		関係分掌と連携を密にし、文理選択、科目選択、希望進路実現に関連する進路ガイダンスや進路ホームルームを企画する。		
		関係分掌と連携を密にし、新大学入試に関する情報を集め、その対策を考える。		
第2学年部	ワンランク上の文武両道を旨とし、「集中」と「切り替え」を徹底して、学習と特別活動の両立を図る。	学年集会を計画的効果的に実施する。各種面談や学習時間調査、進路説明会等も活用しながら、学校行事から学習への切り替え等、進路実現へ努力・邁進する学年集団を維持するよう指導する。		
		進路研究、オープンキャンパスへの参加等、進路の可能性と選択肢を広げるための主体的な行動を促す。		
		自学自習の精神の育成のため、担任、教科担当者、部顧問からの指導を徹底する。また、自習室の積極的利用を促す。		
	自律的生活習慣の確立を図る。	挨拶、時間厳守、身だしなみ、清掃等の指導を通して、規範意識を身につけさせる。		
		学習手帳を活用し、自己管理能力を高めさせる。また、課題研究や学校行事、部活動など多様な学びにも積極的に取り組み、その成果を整理することで成長の自覚を図る。		
	学年内及び分掌の連携を密にし、共通認識のもと、協力して生徒指導に当たる。	効果的、機動的に生徒指導を行うため、問題点や取り組み状況等を日常的に共有する。		
		進路指導部等と連携して、進路選択、自己決定ができるよう情報提供と相談対応を一層充実させる。		
		担任、学年団、保健部等と連携し、様々な原因でつまづきを感じる生徒を支援する。		

平成30年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第3学年部	学年の方針や生徒の状況等を教員間で交流し、他分掌と連絡を密にとりながら効果的な学年運営を目指して協力体制を整える。	分掌内外の発信と受信が学年団のメンバーに明確になるように努め、担任間で互いのクラスの状態を理解し、学年全体で統一した指導体制をとる。		
		他分掌とも情報を共有し、連絡・連携を密に図り、必要があれば協力を求めて学校としての指導を行う。		
	様々な活動をクラスおよび学年全体で協力して取り組ませることにより、やり切ることの充実感・達成感を感じさせる。	部活動については最後までしっかりやり切り、文化祭へ向けてはクラスの中で助け合いながらレベルの高い演劇を創造することで、達成感を味わうとともに、互いに切磋琢磨し、学校全体が個人を応援するムードを作り上げる。		
	進路希望に応じた自発的な学習を啓蒙し、志望校決定へ向けて積極的に取り組む姿勢を醸成するために必要な情報の提供の仕方を検討していく。	昨年度に引き続き、国公立大学の推薦入試等を見据えて、客観的な学力実態を分析・把握し、関係分掌と連携を図りながら進路指導に努める。		
		生徒には「自己の理解」と「大学入試システムの理解」に努めさせるとともに、個々の能力や個性に応じた進路指導を行うための検討会を学年と進路指導部が共同で実施する。		
		スタディーサポートや模擬試験の結果を分析し、課題等を早期に発見して教員の共通認識を図るとともに適切な対策をとる。進研模試デジタルサービスを活用して自発的に学習できるように指導する。		
		LHRの進路学習を系統的に実施し、進路情報の提供と自己理解及び志望校の決定に努める。進路指導部と連携し、上級学校について調べる機会を作り、高い目標と意識を持たせる。		
		学習手帳や種々の資料を活用し、自主学習の十分な時間の確保を習慣化させることを目標とする。また自習室の効果的な利用を促す中で自ら学力を高めることが出来る資質を育成する。		
	基本的生活習慣を充実させ、規範意識や社会性を高め、豊かな人間性を身につけた、成熟した生徒集団の形成を目指す。	自主自律の校訓のもと、自らの行動に責任を持って行動し、高校生として協働性を備え主体的に社会に貢献しようとする志を身に付けさせる。		
		高校生としての挨拶や正しい言葉遣いを指導する。遠方から通学する生徒の増加に伴い、引き続き遅刻防止指導を継続する。また自転車通学の生徒には交通ルールやマナーの遵守、自他ともに安全な交通環境づくりに貢献させる。		
		主権者教育の一環として、共生社会における相互尊重のルールを身に付け、民主的な社会の維持・発展を図るために必要な知識や見方・考え方を習得し、国家・社会の形成者としての資質を育む。		
事務部	学習環境の充実と安全・衛生を確保するため、施設・設備の充実に努める。	校内巡視等により、定期的な施設・設備の確認を行い、危険箇所・老朽箇所等の早期発見に努め、改善につなげる。		
		学校運営予算での執行を基本とするが、学習環境改善の規模等によっては、本庁所管課への予算要望、本庁各課との調整を積極的に行い、予算確保に努める。		
	教育環境の充実に向け、適正かつ効果的・効率的な予算執行を行う。	教員が安心して授業等に臨み、生徒に対して、より効果的な教育が行えるよう、各分掌・教科への適切な予算配分を行い、年間を通して各担当教員との連携を図る。		